

しゆくがわ  
夙川水系河川整備基本方針

平成 20 年 1 月

兵 庫 県

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	
(1) 流域及び河川の概要 -----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	4
2. 河川整備の基本となるべき事項	
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 -----	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	6
(3) 主要な地点における計画高水位、計画横断形に係る川幅に関する事項 -----	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 -----	7

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域及び河川の概要

夙川は、西宮市の西部に位置し、東六甲山のごろごろ岳(565m)、カベノ城(483m)などの山を水源として、甲山、北山貯水池からの支川を合わせて山間部から、西宮市西部の市街地を南下し、大阪湾に注ぐ、流域面積 8.5km<sup>2</sup>、河川延長は約 4.1km の二級河川である。

夙川の河床勾配は、河口から 2.6km までが約 1/180、2.6km から 4.1km までが約 1/60 から 1/20 へと上流に行くにしたがって急勾配に変化している。

夙川の上流は、六甲山と北山貯水池、甲山森林公園、北山公園があり、風致地区、特別緑地保全地区などに指定され自然が保全されている。その下流の苦楽園は六甲山麓の開発で温泉が発見され、下流の遊園地として開発された香櫨園とともに旅館・温泉・遊園地などをそなえた別荘地や高級住宅地となった。

現在も北部の六甲山腹に向かって市街地が拡大し、流域の約 58%が市街地となっている。

地質系統は、中生代の六甲花崗岩と新生代における大阪層群、段丘礫層および沖積層の2つに分けることができる。

東六甲山系に属する流域上流部の山地は六甲花崗岩である。山麓の丘陵地部は、基盤の六甲花崗岩の上を凝固度の弱い礫、砂、粘土からなる大阪層群、段丘礫層などの洪積層に覆われている。下流の平地部は、河川の氾濫で形成された沖積層である。

気候は瀬戸内海性気候に属し、年降水量は 1200mm～1300mm 程度と少ない。兵庫県の本州海側での降水量が 2000mm 程度あるのと対照的である。平均気温は 15.8℃と温暖である。

兵庫県の南東部では、台風期だけでなく梅雨期にも集中豪雨が発生しやすい。その原因として、湿潤な空気が南の海上から紀伊水道を経て、この地域に直接流入し、それが地形的に収束されるためであるとされている。これまでも台風期とともに梅雨期の記録的な大雨により大きな災害を引き起こしている。

高度成長期以降、都市化の進展により地表面の多くの部分が舗装され、地中に浸透したり、田畑に貯留されていた降雨が、一気に河川に流出してくることとなった。また、河川の氾濫域における人口・資産の集積が進んだことで、浸水が発生した場合の被害は増大している。

夙川の改修は、昭和13年の阪神大水害を契機に着手し、改修された。

しかし、近年においても平成元年9月に時間雨量 100mm を超す記録的豪雨に見舞われ被災したほか、平成 11 年 6 月の梅雨前線、9 月の集中豪雨による浸水被害が発生している。また、人口・資産の集中にともなう浸水被害に対する社会的、経済的影響の増大や近年の集中豪雨などによる内水被害の顕在化に対して、よりレベルの高い治水対策が求められている。

また、昭和 25 年 9 月のジェーン台風、昭和 36 年 9 月の第 2 室戸台風、昭和 40 年 9 月の台風 20 号など、相次ぐ高潮被害に見舞われた夙川では、大阪高潮対策事業として堤防の嵩上げが行われ、昭和 46 年に完成した堤防は現在オアシスロードとして市民に利用されている。

夙川の歴史・文化としては、古墳時代後期の古墳群が苦楽園付近に現存している。

また、市の重要文化財「御蔭踊り囃絵馬」を有する越木岩神社があり、境内には県の天然記念物に指定されているヒメユズリハの群落がある。

夙川流域は阪神間の別荘地、住宅地として開け、谷崎潤一郎、湯川秀樹、山口誓子など多くの作家や文化人が住むようになり、作品の舞台を提供している。

文化施設としては、夙川の下流に辰馬考古資料館、郷土史資料館などがあり、上流の北山公園には北山緑化植物園がある。

河川環境については、沿川の桜や松等の樹林を生息場とするシジュウカラやコゲラ、キジバトなどの鳥類がほぼ全区間にわたって確認されているほか、多様な生物の生息が確認されている。

上流では河床勾配が急で瀬・淵が残されており、ヌマムツ、カワムツ、カワヨシノボリが確認された。カワムツは汚濁に弱い種であり、本種が確認された水域は、水質的に良好な状態であることがわかる。植生はツルヨシ、クサヨシなどが水際部に広く分布しているほか、エノキなどの落葉広葉樹林や、モウソウチク、メダケなどの竹林などとなっている。昆虫類では貴重種のナガサキアゲハが確認されている。鳥類では瀬を餌場とするチュウサギなどが確認された。

また、中流では桜や松などが植樹され、エノコログサ、セイバンモロコシなど草本類も多く存在する。河床は砂泥を主として転石、礫が混じった材料で構成される。河道は直線的であるが砂州が発達した区間もあり、草本類を主体とした水際植生が見られる。また、これらの砂州や転石の周囲、落差工の上下流には深みが形成されており、オイカワ、ウキゴリ、ドジョウ等の生息の場となっている。また浅瀬では、コサギなどの鳥類が確認されている。

下流の河床は砂泥となっている。マハゼ、オイカワ等の魚類が確認されている。

河川水の利用について、農業用水、工業用水等の取水は現在行われていない。

夙川の上流には、北山貯水池、甲山森林公園、北山公園などがあり、多くの行楽客が訪れる。河口から銀水橋付近（河口より 4200m）までの河川敷には、夙川公園として桜や松の植樹や散策路、ジョギングコース等が整備され、河川の石積護岸などとあわせて良好な河川景観を形成し、地域住民に親しまれている。

夙川公園は、昭和初期の河川改修とともに兩岸の松林が保全されながら造られたものである。当時の河川改修は、樹林は伐採され、余った土地は売却されて宅地となるのが一般的であったが、河川周辺の居住者、阪神電鉄、阪急電鉄等の受益者負担により保全されることになった。

現在夙川公園には桜 1,600 本、松 1,500 本を数え、全国の「さくら名所 100 選」にも

選定された桜の名所となっている。また随所に階段が設置され、水際まで降りることができる。夙川公園と共に夙川に散策等で訪れる人は多く、夙川そのものが地域に密着した河川となっている。

このように夙川は多くの人に親しまれ、地域住民も川に対する意識が高く各種団体により清掃等が行われている。

水質については、夙川は環境基準の C 類型に指定されている。下水道整備が進んだこともあり、平成 11 年以降の BOD(75%値)は 1～3(mg/l)程度で推移しているなど、概ね C 類型の基準を満足している。

河川の流況については、これまでに定期的な観測が行われておらず把握されていない。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

夙川においては、治水・利水、生態系、水文化・景観、親水を4つの柱とした「“ひょうご人と自然の川づくり”基本理念・基本方針」に基づき、河川整備の実施状況、水害の発生状況、河川利用の現状、河川環境の保全、西宮市の総合計画等を考慮し、河川の総合的な保全と利用を図る。

洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関しては、100年に1回程度の降雨で発生する洪水から人命、資産等を守ることを目標とする。

夙川流域では、これまでに掘削や護岸整備などの河川改修が行われてきたが、下流の一部の区間では流下能力が不足しており課題となっている。

下水道の雨水対策は放流先の夙川が天井川となっていることから、河川水位が高い場合には効率的に排水できない状況となる。

このため、河川や下水道等を一体として総合的な治水対策により洪水被害の軽減を図ることとする。

河川対策としては、断面狭小区間における河積の拡大により、目標とする治水安全度の確保を図る。

下水道としては、管渠整備や学校、公園等を利用した雨水貯留施設の整備により、内水被害に対する安全度の向上を図る。

また、高潮対策としてはこれまでに防潮堤が完成しているため、今後も施設の適正な維持管理を図る。

計画規模を超過する洪水や高潮に対応するため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備を行うとともにハザードマップの作成支援や防災意識を高める取り組みを行うなど、情報の提供と共有により地域住民主体の防災活動の支援を行い、総合的な被害軽減対策を関係機関や地域住民等と連携して推進する。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現在、河川水の利用はないが、震災などの緊急時には、河川水の利用が図られるように配慮する。

夙川流域および関連する地域の水循環を考慮し、西宮市等の関係機関との連携のもと、広域的・総合的な取り組みにより、流水の正常な機能の維持・改善に努めていく。

河川環境の整備と保全に関しては、関係機関と連携し、夙川公園と一体となった良好な景観の保全および動植物の生育・生息環境への配慮に努める。このため、中流域ではドジョウ、ウキゴリ等に配慮し、現況の砂州や深みが形成された河床、水際植生の保全・回復に努める。上流域ではカワムツ等の生息に配慮し、瀬・淵の保全に努める。

また、最下流の河口付近には干潟が形成されておりチュウサギ、コチドリ等の鳥類が確認されている。これらの生息環境に配慮し、干潟の保全に努める。

水質については、夙川本川全域でC類型に指定されており、現在、環境基準を達成している状況である。今後も関係機関と連携し、水質の改善に努める。

動植物の生息状況等の河川環境についてモニタリング調査を行い、河川環境の把握に努める。

また、河川の水質や環境の維持、改善等を図るため、河川の流況の把握に努める。

河川の維持管理に関しては、河川が地域の共有財産であるという認識の基に、災害の発生防止又は軽減、河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から河川が有する多様な機能を十分に発揮させるため、適切な維持管理を行う。また、地域住民への情報提供等により地域住民のボランティアによる河川清掃活動等を支援するなど、地域住民と連携した川づくりの推進を図る。

## 2. 河川整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

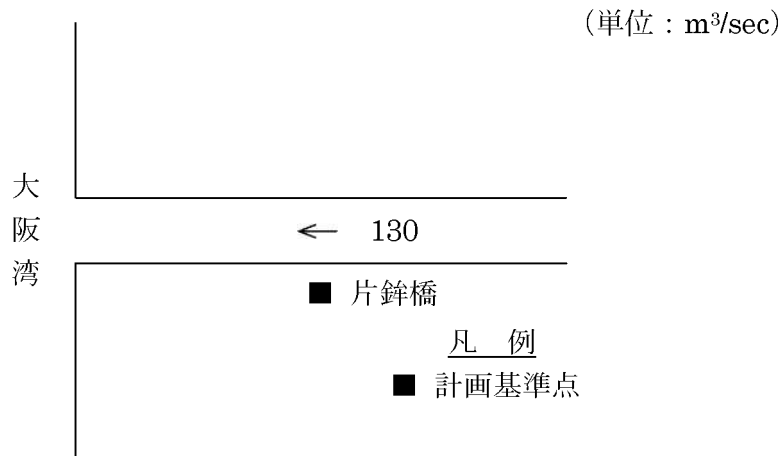
基本高水のピーク流量は、計画基準点<sup>かたはこぼし</sup>片鉾橋地点において 130 m<sup>3</sup>/sec とし、これを全量河道へ配分する。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	計画基準点	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m <sup>3</sup> /sec)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /sec)
夙川	片鉾橋	130	—	130

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、片鉾橋地点において 130 m<sup>3</sup>/sec とする。





(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

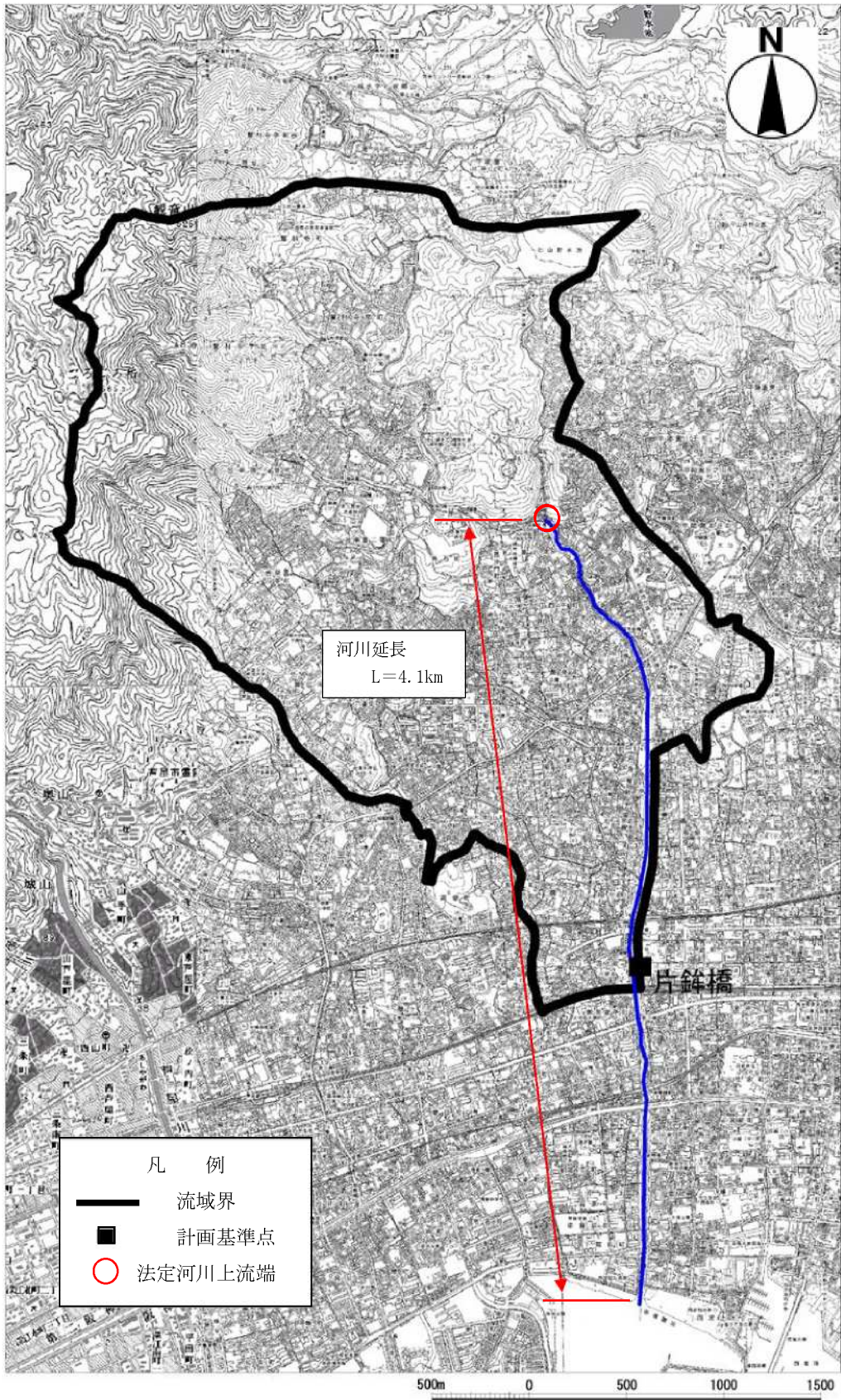
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)
夙川	片鉾橋	1.71	12.87	17

注) T.P. 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

夙川においては既得水利はなく、現在河川水の利用はされていない。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、流況や水収支の把握、河川及び流域における諸調査を行ったうえで決定するものとする。



夙川水系図